

“雑穀の里”を 支えたい一心です。

農産物生産加工グループ「ミル・みる会」
会長・中道 ハルエさん

町の特産品で、新鮮さと安全を提供する。
ログハウス風の外観と広い駐車場を持つ軽米町の産直施設
「ミル・みるハウス」は、観光バスも立ち寄る人気スポット。



中道ハルエさん(左)とレジ係の池端由紀子さん

●ミル・みる会を立ち上げた経緯

平成10年7月頃に、軽米町役場農林課の方から、「生産して余った野菜等売り物にしてはどうか。」とお話しを頂き、何人かの農家に声を掛け賛同を得たのがきっかけだった。私は幸い野菜などを売ることが好きだったこともあり、「建物を無料で貸すからここで売ってみては。」と役場から言われたため、やってみることにした。最初は第3セクターの委託で、自分達はレジに立たず品物を提供するだけだったが、平成12年頃からは

独立し、自分達だけで独自に運営するようになった。

現在、売上も伸びて来ており、この晴山地区だけではなく軽米町全域からも会員を募集し、会員数は42名となっている。会員は、40〜80代の、ほとんどが農家で構成されており、自分で作った野菜を持ち込み、売れた分だけ自分の売上となる。

●ミル・みる会の名前の由来

「ミル・みる会」の片仮名のミルは、ミル・みるハウスの建物の中に置かれてある、石臼式の大きな製粉機の粉ひきの意味の「ミル」と、平仮名の「みる」は、自分の目で見て確かめて良い物を購入するという意味の「みる」となっている。また、この大きな製粉機はこの財産となっている。

●雑穀へのこだわり

軽米は雑穀の里であり、その雑穀を生かして軽米町のアピールをしていきたい。「雑穀と言えば軽米」、「軽米と言えば雑穀」と言われるように、1年中購入できるように常に雑穀を販売していきたい。そのうち、軽米と言えば「ミル・みる会」と言われるようになりたい。私自身も、粟や稗、アマランサスや稲きびなどを栽培しているし、雑穀の売上は大きく、県内はもとより県外からも買物客が多い。お客様から、「いつ来ても欲しい物が置いてある。」と言ってもらえるのが有難い。



軽米町産の雑穀類

●子供から大人まで 好まれるポン菓子

ポン菓子は、みなさん大好きで、ここでも売上が良い。また、ポン菓子は、ふるさと食品コンクールでも表彰されている。作り方は、米に雑穀類を入れた物をポン菓子製造機に入れてから、蜂蜜や砂糖を入れ、熱いうちに型に詰めて整形。余熱があるうちに切り分けたお菓子で、甘さ控えめで食感も良く、子供から年配の方まで好まれている。砂糖味、醤油味、カレー味、エゴマ味の4種類出している。1番売れているのはエゴマ味で、香りがとても良い。



大人気のポン菓子

●会員のやりがい

会員には高齢者が多くなってきており、ほとんどの会員が年金をもらっている。年金プラス、この売り上げがボーナス代わりになるから、皆さんそれが楽しみで働いている。ほとんどが農家だから、毎月の売上で現金が入ることが励みにもなるし、お姑さんとお嫁さんが一緒に働いている、仲の良い家族もある。また、孫への小遣いにもなるし、毎日の生活の張り合いにもなっている。韓国出身のお嫁さんが作っている、手作りのキムチの漬物も評判が良い。会員のほとんどは女性だが、男性も3人いて、行者にんにくや山菜類などを販売している。

●今までの活動の課題

やっぱり人間関係、コミュニケーションに一番気を使った。若い世代と年配の世代との世代間の問題よりも、品物の値段のつけ方。自分の持って来た品物が売れば売れるだけ自分の利益につながるから、後から品物を持って来た人が、先に持って来ている品物の値段を見て、それより安い値段をつける。同じような商品なら後から値段を付けた安い方が売れるし、それでは先に持って来た人に悪い。これでは駄目だということで、役員会で何回も相談して、どうやって公平に値段を設定するかを決めるのが難しかった。

●これからの活動における抱負

会員の皆さんの高齢化が進んできているから、若い世代の新たな会員を増やすことと、売上がプラスになるのが一番良いんだけど、何とか現状を維持してやって行きたい。体には充分に気を付けて、雑穀の里として軽米町をずっと盛り上げて行って、後世にも「雑穀の里」として残していくためにみんな頑張って頑張っていきたい。



ミル・みる会の皆さん

農産物生産加工グループ「ミル・みる会」
住所：〒028-6221 岩手県九戸郡軽米町晴山 22-38-1
会長・中道ハルエ
TEL：0195-47-1806 FAX：0195-47-1806